

令和6年度 揖屋小学校研究構想

1 研究主題

自分の考えをもち、仲間とともに探究しながら深め合う児童の育成
～ICTの効果的な活用とラーニングコモンズの環境整備～

2 主題設定の理由

【学校教育目標より】

本校の教育目標は、「自ら学び、考え、人と関わりながらたくましく生きる揖屋っ子の育成」である。このような児童の育成を目指して『対話と探究～「自分の考え」と「新たな考え(最適解)」～』がキーワードとして示されている。

「対話」とは、自分の考えをもって、相手と話し合いながら学びを進めることであり、対話を通して多様な見方、考え方に触れ、新たな考え(最適解)や活動を見つけることができる。また、「探究」とは、自ら課題を設定し、情報の収集・整理・分析を行い、周囲と協働しながら課題解決する力を身につけることである。自ら学び、考え、人と関わりながらたくましく生きる揖屋っ子の育成を目指し、「対話と探究」を切り口として、今年度の学校教育目標の実現に迫っていきたいと考える。

【社会的背景から】

これからの社会はVUCA:Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(持続性)、Ambiguity(曖昧性)の時代であり、予測できない社会になると言われている。新学習指導要領では、その社会に生きる子どもたちに必要な資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」という3つの柱で示している。また、その資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が求められている。さらに中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」では、資質・能力の育成を着実に進めるために、ICTも最大限に活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められている。学校の生活や学習においても日常的にICTを活用できる環境を整備し、活用しながら授業改善をしていくことが必要不可欠である。

【児童の実態より】

本校児童は、素直で優しい児童である。授業においては、誰とでもペアやグループで話すことができたり、言われたことに対して素直に取り組んだりすることができるところが強みである。一方で課題として、受け身で主体性に欠ける児童が多く、友達の話の聞いたり、友達の意見を受け止めて話し合いを深めたりすることが十分とは言えない。言い換えると、課題を自分事として捉え、自分の考えをもつこと、友達の意見を聞いて、自分の考えを見直したり広げたりしながら、みんなで課題解決を図ることに課題があると考えられる。「どういうことかな？」

「知りたい、調べたいな！」と課題を自分事として受け止めたり、「話したい！」「〇〇さんの考えを聞いてみたい！」「なるほど、納得！」「そういうことか」と対話を通して自分の考えを深めたり、「次はこれを調べてみたいな」「これはどういうことだろう？」「もっと調べてみたいな」と探究し続けたりする児童の姿を具体的に描きながら授業に取り組むことが必要であると考え

る。

以上のことを踏まえ主題を設定するとともに、今年度完成予定の新しい学びの空間「ラーニングコモンズ」の環境を整えるため、副主題を「ICTの効果的な活用とラーニングコモンズの環境整備」として実践することとした。

3 研究主題の受け止め

○自分の考えをもち

・課題を自分事としてとらえ、経験や既存の知識を働かせながら自分なりの考えをもつことができる。

○仲間とともに探究しながら

・課題の解決に向けて、情報を収集・整理・分析しながら、仲間と対話をしたり、自分で振り返ったりすることができる。

○深め合う

・対話を通して多様な見方、考え方に触れ、新たな考え(最適解)や活動を見つけることができる。

4 研究の目的

自分の考えをもち、仲間とともに探究しながら学びを深めていく児童を育成するための学習指導の在り方を探る。

5 研究仮説

授業において、その教科の見方、考え方を働かせながら問題を見いだすことのできる出会いや課題の解決に向けて、情報を収集・整理・分析するための手立てを工夫したり、目的や必要性のある対話場面を設定したりすれば、自分の考えをもったり、深めたり、新たな考えを見つかけたりすることができるだろう。

6 具体仮説

(1)授業において、その教科の見方、考え方を働かせながら問題を見いだすことのできる学習対象との出会いを工夫すれば、自分の考えをもつことができるだろう。

(2)課題の解決に向けて、情報を収集・整理・分析するための手立てを工夫すれば、自分の考えを深めることができるだろう。

(3) 目的や必要性のある対話場を設定すれば、多様な見方、考え方に触れ、新たな考えや活動を見つけることができるであろう。

7 研究内容

- (1) 問題を見いだすことのできる学習対象との出会いの工夫
 - ① 教科の見方、考え方を働かせることのできる出会いや単元導入の工夫
 - ② 見通しがもてる単元構成や学習過程(探究サイクル)の工夫
(課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→課題の設定→…)
 - ③ 一単位時間の授業展開及び指導過程の工夫
- (2) 課題解決に向けて、情報を収集・整理・分析するための手立て
 - ① ICTや図書館の活用(ラーニングコモンズ)
 - ② 思考ツールの活用
 - ③ 児童の実態把握と教師の話し合いの深め方の工夫
- (3) 対話場面の設定
 - ① 対話する目的や必然性のある課題の設定
 - ② 学習内容等に応じたグループサイズの運用
 - ③ 話を聞き合える関係性の構築

8 研究の検証方法

- (1) 授業における児童の変容分析
- (2) 児童アンケートの分析
 - ① 「どういうことかな?」「知りたい、調べたいな!」と感じたことはありますか。
 - ② 自分の考えをもちながら学習をしていますか。
 - ③ 見通しをもって学習に取り組んでいますか。
 - ④ 最後まで粘り強く取り組んでいますか。
 - ⑤ 自分の考えを友達に伝えたり、発表したりすることは好きですか。
 - ⑥ 友達の考えから自分の考えを広げたり、深めたりすることはありますか。
 - ⑦ 情報を集めたり、整理したり、分析したりすることはできますか。
 - ⑧ ICTを使って調べたり、まとめたりすることはできますか。
 - ⑨ 学習で学んだことをいかして、何かをつくったり調べたりすることは好きですか。
 - ⑩ 振り返りをして、次の学習に活かしていますか。
- (3) 研究授業の分析
- (4) 授業改善プロジェクト(別紙)